

昭和四十八年七月招集

第三回館山市議會臨時會會議錄

館山市議會

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	二
議事日程	二
開會	二
議長の報告	二
議案の配付	二
会議録署名議員の指名	二
会期の決定	二
提案理由の説明	二
議案第五十七号	三
議長の報告	六
議案第五十八号	六
閉會	一三
本日の会議に付した事件	一三

一、昭和四十八年七月九日（月曜日）午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一 番	吉田 勇治郎	二 番	林 豊
三 番	流山 源次郎	四 番	鈴木 稔
五 番	近藤 好雄	六 番	栗原 一雄
七 番	渡辺 昭夫	八 番	石井 武敏
九 番	辻田 実	一〇 番	渡辺 軍治郎
一一 番	藤田 益治	一二 番	五十嵐 昇
一三 番	伊賀 多朗	一四 番	和田 一郎
一五 番	辻井 謹爾	一六 番	安西 益男
一七 番	島野 茂樹郎	一八 番	塚 喜三
一九 番	鈴木 市蔵	二〇 番	田村 源治郎
二一 番	菊井 敏博	二二 番	田村 源治郎
二三 番	安沢 徳順	二四 番	西村 真次
二五 番	田中 禄郎	二六 番	望月 照正
二七 番	田中 禄郎	二八 番	秋山 六三郎
三〇 番	遠山 日ネ子	三二 番	
一、欠席議員 三名		一七 番	宮野 敏朗
二 番	飯田 義男		
一 番	山本 昇		
市 長	本間 謙	助 役	島山 伝
収入 役	高木 哲三	秘書 課長	太田 博雄
庶務 課長	小倉 澄男	税務 課長	越路 良夫
商工 課長	鈴木 力		

一、出席事務局職員

事務局 長 高 尾 豊 事務局補佐 脇 田 元 始
書 記 兵 藤 恭 一 書 記 鈴 木 哲
書 記 渡 辺 弘 書 記 川 上 義 雄

一、議事日程

昭和四十八年七月九日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 議案第五十七号

日程第四 議案第五十八号

館山市市税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について

館山市厚生年金保険被保険者休養施設設置条例の一部を改正する条例の制定について

開

会 午前十時四十八分開会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十七名、これより昭和四十八年第三回市議会臨時会を開会いたします。

議長 の 報 告

○議長（吉田勇治郎君） 本臨時会議案審査のため、地方自治法第二百一十一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり出席報告がございましたので御了承願います。

議 案 の 配 付

○議長（吉田勇治郎君） 議案を配付いたさせます。議案の配付漏

れはございませんか。― 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

会議録署名議員の指名

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行ないます。

五番議員近藤好雄君、二八番議員田中祿郎君、以上両君を指名いたします。

会 期 の 決 定

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、会期の決定を行ないます。

本臨時会の会期につき、議会運営協議会の意見は本日一日というところでございます。

おはかりいたします。会期を一日ときめますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって会期は本日一日と決定いたしました。

提 案 理 由 の 説 明

○議長（吉田勇治郎君） この際、本臨時会招集につき、市長のあいさつ並びに説明を求めます。

（市長本間 譲君登壇）

○市長（本間 譲君） 本日は急拠第三回臨時会を招集しましたところ、議員の各位におかれましては、公私御多忙のところ御来会

をたまわりましたことにありがとう存じます。

本日、御検討をいただきます案件は条例関係二件でございますが、そのうち一件は専決処分の条例でございますが、これは皆さ
ま方も新聞やなんかで御承知でございますし、土地の抑制あ
るいは高度の利用、そういうような目的をはかるために土地保有
税というものが今度新設されたわけでございまして、それらの省
令とか、政令が三十日に到着したわけでございまして、実施が七
月一日こういうふうになつたわけでございまして、それにつきま
しては議會を招集するひまがございませんので、市長において専
決処分をいたしましたので、この点について御検討をお願いいた
存じます。

もう一つは、鳩山荘の宿泊料金の改定でございますが、最近に
おける物価高、賃金高等によりまして、大部分の国民宿舍は赤字
というふうな状態になつておるわけでございまして、これは今、
所管は環境庁になつたわけでございまして、環境庁によりまして
これをいろいろ検討した結果、値上げする。こういうことになつ
たわけでございますが、その額は現在は千四百円ですが、千八百
円ということになつたわけでございますが、これらにつきまして
もいろいろお考え方もありましようが、そういうふうに通達がま
いったわけでございまして、館山市の国民宿舍もそれにならつて
値上げをする。そうして、もし剰余金が出ましたならば、施設の
改善等にいたしたいと考へておるわけでございますが、以上のと
おりでございますが、あとは主管課長から御説明を申し上げます
ので、よろしく御検討をお願いいたしましてぜひ御決定をたまわ
りたいと存じます。

以上、申し上げまして、私の議案説明にかえさしていただきま
す。どうも失礼いたしました。

○議長（吉田勇治郎君） この際、おはかりいたします。

各議案の朗読はこれを省略したいと思ひます。これに御異
議ございませんか。——御異議なしと認めます。よつて決しまし
た。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第五十七号館山市市税条

例の一部を改正する条例の専決処分の承認についてを議題とい
たします。

議案第五十七号 館山市市税条例の一部を改正する条例の専決
処分の承認について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 議案の説明を求めます。

○税務課長（越路良夫君） 議案第五十七号につきまして申し上げ
ます。

本案は、専決処分によりまして市税条例の一部を改正する条例
を制定いたしましたので報告し、その承認をたまわろうとするも
のでございます。

本年四月の地方税法の改正によりまして、特別土地保有税の新
しい税金が制定され、本年の七月一日から適用されることになつ
たわけでございます。

特別土地保有税の適用にあたりまして、この税に関する条例を

早速整備する必要があったわけでございますが、制度中新しい税に対します政令あるいは省令の公布が当初見込まれました時点から相当に遅れまして、これらの整備がようやく六月三十日に完備された。これは法律適用の前日でございます。

以上のような経過で、緊急やむを得ず改正条例を六月三十日づけで専決により制定いたしましたようなわけでございまして、これらの事情を御了承のほどをお願い申し上げます。

改正条例の内容につきましては、すべて特別土地保有税に関連する事項でございます。

それでは、特別土地保有税の創設の趣旨あるいは仕組みの概要を簡単に申し上げたいと思いますが、これは先ほど市長のほうから申し上げましたように、土地の取得または保有の事実に対して課税することによりまして、今後の投機的な目的による土地取得を抑える。なおまたこれらの結果、すでに取得された土地の供給を促進していくというねらいを持っております。

税の仕組みにつきましては、まず税の構成でございしますが、これは二つの部分に分けております。

一つの部分としましては、昭和四十四年以後に取得した土地と引き続き所有している場合に対して課する。これは保有部分ということでいっておりますが、その保有部分と、それから本年の七月一日以後に対するその取得事実に対しての取得部分、この二つの事実に対してかかるものでございます。

課税標準は、この場合につきまして、取得価額が課税標準になるわけでございまして、ただし、その場合に無償の場合あるいは著しく低額の価格のような場合につきましては、これは通常この

土地を取得するために要する額ということで政令にも明記されております。

税率は、土地の所有部分に対しては百分の一・四、それから土地の取得に関する部分につきましては百分の三、それぞれ固定資産税または不動産取得税相当額をその額から控除するというようなことによつてこの税額が出るわけでございます。

それから、免税点の制度はこの税の場合にもあるわけでございます。これは土地の所在区域と、その区域に応じた面積で三つに区分されるわけでございますが、本市の場合の免税点は五、〇〇〇平米未満ということになりますので、館山市内に所有する土地、館山市内で合計しまして本年七月一日以後に取得した土地が五、〇〇〇平米に満たない場合は、これは課税の対象外ということになります。

それから、納める方法でございしますが、この場合は申告納付という方法を取ります。その期限は、保有部分につきましては、その年の五月三十一日限り、それから取得部分につきましては一月の時点の対象の場合ではその年の二月末日、それから七月の時点の対象の場合にはその年の八月三十一日このように納めなければなりません。

適用にあたりましては、保有部分については昭和四十九年度分から、それから取得部分につきましては本年の七月一日以後の取得土地からそれぞれ適用されるというわけでございます。

以上が、特別土地保有税の概要でございしますが、本議案につきましては、なにとぞ先ほど申し上げましたような時期的な問題がございましたが、これにつきまして御承認たまりますようお願い

い申し上げます。以上でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で説明を終わります。

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） よく研究してないんで、あまりよくわからないんですが、取得の価額の標準がこれは売買価額が標準であるということは、この前四月二十六日ですか、地方税法の一部改正で固定資産税が取得価額によってそれが標準になるということですが、これもやはり同じように売買価額といいますか、取得価額といいますか、売買価額が標準になると思うんですが、住宅の場合とそうでない場合とのことを考えますと、ここに相当大きな問題があると思うんです。

住む場合には、売買する目的で買うわけではないんですが、不動産業者が土地を取得する場合には、当然売買が対象になる。また事業者が土地を取得する場合には、事業の経営から見て採算が合えば相当高い価額でもこれ取得する。いろいろそういう面でかわりがあるんですが、それを一律に住宅もなにも全部ひっくりめて売買価額が標準になるということだと、かなり課税の面では不動産業者あたりが土地売買を目的にしてやる分には、これはさしつかえないけれども、住宅を目的とするような場合との差があまり起こってこないんじゃないかというふうに考えますが、そういう点での調整といいますが、そういうものはないのかどうか。そのへんを聞きたいと思います。

○税務課長（越路良夫君） ただいまの価額の問題でございますが、

固定資産税の場合につきましては、これは御承知のように評価額ということと納めます。評価額につきましては、これは取得額すばりではございません。評価の中にはいろんな要素が含まれてるわけでございますが、たとえて申し上げますと、たとえばその土地を売らなければいけないような場合と、それからたまたまそれが抵当権の設定がされている場合とか、いろんな要素がございます。そういうような正常的な要素を除きまして、正常要素が要するに評価額ということであるわけでございますが、この新しい土地保有税につきましては、これは先ほど申し上げましたように、取得価額が課税標準になるということで、そこには当然差が出てくるわけでございます。

取得価額の決定につきましては、これは通常の場合でありますと、当然そこに譲渡契約なり、売買契約なりが結ばれておるわけでございますが、そういう売買価額と、それに加えてその他の手数料的なものを含めまして、そこに課税標準がなされるわけでございます。

したがって、結論的には、固定資産税の場合の価額と、この保有税の場合につきましては、この価額は違うものに相なります。

なお、住宅の場合の売買価額についての御質問でございますが、これにつきましては、この保有税の場合に免税点の制度、これは基準面積でございますが、本市の場合に五、〇〇〇平方メートルを下回る場合につきましては、この住宅を建てるための用地については税金の対象にはならないわけでございます。

また、法人の場合あるいは個人の場合とのその差はないかとお話しのようでございますが、この保有税につきましては、個人

法人を問わずそういう保有事実あるいは取得事実に対するものがこの対象になります。

○一五番(和田一郎君) ちょっとお尋ねします。農家が農地を買った場合、どうなりましようか。

○税務課長(越路良夫君) 農地の場合の売買も農地法で認められる分につきましては、もちろん売買できるわけでございます。

その場合に、やはり農地としての契約が正規にもちろんなされるわけでございまして、その取得事実につきましては、これは現時点におきましては農地法の適用がございしますので、本県の場合につきましては千葉県知事の許可のあったその日がその取得された日ということで、この税が当然算定されるわけでございます。

○議長(吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。―御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長(吉田勇治郎君) おはかりいたします。

本件を委員会付託並びに討論を省略し、直ちに採決することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。

採決

○議長(吉田勇治郎君) これより採決いたします。

本件は承認することに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって本件は承認することに決定いたしました。

暫時休憩いたします。

午前十一時五分 休憩

午後一時二分 再開

○議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長の報告

○議長(吉田勇治郎君) この際、申し上げます。

市長緊急の用事のため午後欠席する旨の通知がございました。

なお、出席説明員として助役が出席する旨の報告がありましたので御了承願います。

議案の上程

○議長(吉田勇治郎君) 日程第四、議案第五十八号館山市厚生年金保険被保険者休養施設設置条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第五十八号 館山市厚生年金保険被保険者休養施設設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案の内容説明

○議長(吉田勇治郎君) 説明を願います。

商工観光課長(鈴木 力君) 議案第五十八号につきまして御説明申し上げます。

休養施設の設置条例の中の利用料の規定の改正をお願いするも

のでございます。

改定の理由につきましては、冒頭市長のほうから説明がございましたが、国民宿舍の利用料につきましては、全国的に共通の基準料金が定められておるわけでございます。

現行料金につきましては、一昨年の昭和四十六年五月二十日から実施されてきたわけでございます。

その後、人件費あるいは物件費等の高騰によりまして、国民宿舍の健全な運営というものがなかなかむずかしい状態におかれてきておるわけでございまして、こういうことから今回利用料の基準の改定が行なわれまして、先般環境庁自然局長から千葉県知事を通じて通達がきたわけでございます。

今回の利用料基準の改定につきましては、館山市厚生年金保険被保険者休養施設設置条例の一部を改正する条例をお願いしたわけでございます。

改定の内容につきましては、条例の第四条の利用料の規定につきましては別表に定める額と規定されておるわけでございます。今回の改正につきましてはこの別表を改正するわけでございますが、その中の宿泊料、それから食料、休憩料この三つをそれぞれ利用者区分によりまして改正をお願いするわけでございます。上欄の別表を下欄の別表に改めるものでございます。

まず、宿泊料でございますが、ここに掲げてございます如くゆる七百五十円現行料金これは一般の場合でございます。これを下欄にございます九百八十円に改正するということでございます。次に、同じ宿泊料の中の五百五十円、上欄の現行料金これは中学の生徒の場合でございます、これを下欄の七百八十円に改定し

ようというものでございます。なお三百五十円これは同じく宿泊料金でございますが、小学校児童でございます。これを四百八十円に改正しよう。こういうことでございます。なお無料というのはこれは幼児の場合でございます。これは現行同様でございます。次の欄の二百円、その左の四百五十円これは食料でございます。二百円というのは朝食でございます。一般、おとなの場合二百円を二百四十円に改正しようとするものでございます。なお中学校の生徒あるいは小学校の児童につきましては、おとなと同様二百円というものを今度二百四十円に共通して改正しようというものでございます。

次の四百五十円というのは夕食でございます、これもおとな、中学生、小学生とも共通でございます。現行四百五十円を五百八十円に改正しようというものでございます。

次の欄の一夜または一回につき五十円これは暖房料でございます。今回は改正はございません。

最後に、一日または一回につき三百円とございますのは、これは休憩料でございます。現行三百円を四百円に改正をお願いしたいというものでございます。

したがしまして、以上が改正の内容でございます。一般、おとなの場合、従来一泊二食の基本料金千四百円が千八百円に改正しようというものでございます。中学生の場合に現行千二百円が千六百円になります。小学校児童につきましては千円が千三百円に改正しようという内容でございます。

附則におきまして、この条例の改正を七月十日から実施をお願いする。こういう内容でございます。簡単にございますが、以上

で説明を終わります。

○議長（吉田勇治郎君） 説明を終わりました。

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○一四番（伊賀多朗君） 先ほど市長から説明もあって、課長からも説明がございましたが、市長さんの特に、ことばじりをとらえるわけではないんですが、あちこちでも値上げしているからというような話がございましたが、今、環境庁という話がございましたが、昔は厚生省だったと思うのでございますけれども、そういうところから一方的に指令がきて上るものか。

さっきのお話ですと、理由は人件費云々というお話がございましたが、こちらからそういうことを申し立ててそういうことになってくるのかということ。

○商工観光課長（鈴木 力君） 今回の利用料の改定につきまして、現在所管が環境庁でございます。これにつきましては、全国国民宿舎の国民宿舎協会というのがあるわけであります。これは財団法人でございます。連合体の組織でございます。

やはり、各国民宿舎とも非常に財政的に苦しくなりまして、健全な経営がおぼつかない。こういうようなことでございまして、利用者に対するサービスの低下をまねくおそれもあるのじゃないか。こういうようなことから、全国の国民宿舎協会等で各国民宿舎が改定の要望がなされたわけでございます。

それによりまして、環境庁が諸般の状況を勘案いたしまして、それが妥当であろう。こういうふうなことから今般改正がなされ

た。こういうふうに聞いております。

この改定によりまして、国民宿舎の財政的な、いわゆる独立採算ということでございますが、館山市の国民宿舎鳩山荘におきましても、四十八年度におきましても特に経営が心配されておったわけでございまして、今回の改正ができれば財政的にも一応赤字ということは当然ないわけであります。鳩山荘自体におきましても改定を望んでおった次第でございます。

○一四番（伊賀多朗君） 全国一斉に今度値上げしたわけですね。よそは上っていて館山だけ上らないで今度上ったということではないわけですね。

○商工観光課長（鈴木 力君） そのとおりでございます。

○一四番（伊賀多朗君） この料金が安い、高いということは、どうこう私いうわけではございませんけれども、千四百円が千八百円になったという簡単なことだけで、計算いたしますと四百円のアップで、元の千四百円に比べると二割八分強の値上げというところで。これはたいへんな率でございますが、これは医療機関なんか今たいへん緊急医療ということで問題になっておりますけれども、そこで値上げということになるとたいへんな問題なんですけれども、さっきお伺いしましたけれども、環境庁で判断して一方的にぼんと決定できるんですかどうか。たいへん大幅な値上げだと思っております。

それから、さっきいろんなサービスというお話がございましたが、これはいろいろ人件費の問題もございまして、この前の予算のときに五一・七％ぐらい収入分の材料費がかかるというお話があったかと思うんですが、そちらのほうへも回すとい

りような計算になるんでしょうか。予定なんでしょうか。

○ 商工観光課長（鈴木 力君） 今回の改正につきましては、環境庁が改定の基準を示したわけでございますが、一方的に環境庁の通達によって全国の国民宿舎が改定するというところでございますが、先ほど申し上げましたとおり、環境庁といたしましてもできるだけ値上げをしないという方針であったということでございますが、全国の国民宿舎の財政的な状況から察しまして、今回改定がなされた。こういうふうに聞いております。

それからなお、この値上げによりまして、当然いわゆる食事収入の賄材料費ですか、こういったものによりまして当然値上げといえますか、できるだけ見込まなくちゃいけない。これは鳩山荘の場合におきましては食事収入の五一％を賄材料費として見込んでわけでございます。

したがしまして、今回の改定によりまして推計ではございますが、四十八年度におきまして約四百万程度の増収が見込まれる。こういうふうに考えておるわけでございます。

○ 一四番（伊賀多朗君） どうも、初めの話がはっきりわからないんですが、そういう情勢だということで環境庁が一ぺんにきめて上げてよろしい。上げなさいというような指令ができるのかどうか。お伺いしたいんですが。

それから、五一・七％という話が出ましたんですが、今度の新しい予算についても五一・七％ですか、ぐらゐの経費で原材料費でおやりになるのかどうか。

それから、そういう値上げをすると、したがって利用率が六九・八％、一万八千五百人とか、四十五年度の間ぐらゐに四十七

年度減った。下っているというときに、全国一斉に値上げで同じ値段なら差別ないかもしれないけれども、利用率がなお減ってくるんではないか。今、四百万の増収だということでしたが、同じ人間ならそういう計算できますけれども、上ったということにおいて数が少なくなりはないか。二万人ぐらゐいるのがもっと少なくなってきたはしないかということを心配しているんですが、四百万という根拠を合わせて御説明願いたいと思います。

○ 商工観光課長（鈴木 力君） 全国の国民宿舎は環境庁のこの通達によって一斉に値上げする、できるかということでございますが、これは当然環境庁の通達によりまして利用料の改定がなされるわけでございます。

それから次に、四百万円の改定による増収ということでございますが、これにつきましては、昭和四十七年度の利用率、宿泊率あるいは総体の利用率これから勘案いたしまして、宿泊収入におきましては約三百万程度増収の見込み、それから食事収入につきましては先ほど申し上げました賄材料費の支出ということを勘案いたしまして、差し引き百万程度を推定によりまして見込んでおります。

それから、利用度の減少が見られるのではないかとということでございますが、四十七年度におきましては宿泊率が五七％、総体の利用率が七一・五二％だったわけでございますが、四十八年度に入りまして四月、五月、六月の実績が出ておるわけでござい

ますが、大体昨年同期の実績とほぼ同様の利用状況でございます。今後夏場の一番利用率の多いとき、夏以外の利用につきましても従業員の利用率を高めるための努力を重ねまして、四十七年度以

上の利用率を上げたい。このように考えております。

〇 一四番（伊賀多朗君） 全国一斉に上ったのなら差別はないからいいかもしれませんが、私今伺ったのは、千八百円になった。これはもっといえば、朝めしと夕食だけで千八百円なんです。屋めしの計算の中には入ってないわけです。朝めしと夕めし平均して屋めしの計算を仮りにすると、こういう単純計算だと、屋めし四百十円ぐらいいなくなりまして、それを千八百円に四百十円足しますと、二千二百十円ぐらいいの計算になろうかと思ひます。こういうことになったときに減少しないだろうかということをお伺ひしているわけです。

それと、さっきの賄材料の五一・七%も上るんだということでしたがつて内容もよくなるかもしれないし、値上りで同じになるかもしれないし、その辺のことを内容的によくなるかどうか。そのことと、全体のカロリー計算、大体何カロリーぐらいい。そういう計算はしないのですか。国民宿舎のこと細かくわかりませんが、栄養士なんか現在いないだろうと思ひますが、そういうカロリー計算はどなたがなさるか。そんなことは全然国民宿舎は関係ないのか。そのへんをもう一度。

〇 商工観光課長（鈴木 力君） 使用料の値上げによっていわゆる利用率というものが低下するのではないか。こういう御心配でございますが、国民宿舎は一般大衆の宿舎でございます。安くしかも安心して宿泊できる施設こういう趣旨でございます。そういうことから、利用料を今回の約二八%強の値上げによりまして利用率が低下するということは考えられません。

それから、サービス面におきまして、それだけやはり料理の内

容とかそういうサービスを一応考えまして、サービス面におきまして値上げに対するカバーといひますか、そういう意を用いていきたい。こういうふうに考えております。

それからなお、料理のカロリーのことでございます。各国民宿舎とも当然資格のある調理士がやっておるわけでございます。鳩山荘におきましても調理士、なお調理補助が二人おるわけでございますが、カロリー、栄養につきましては十二分に意を用ひましてやっているわけでございます。

一日何カロリーというような計算はしてないかもしれませんが、私存じておりませんが、一応資格のある調理士によってカロリーのことは当然計算されて料理されておる。こういうふうに考えております。

〇 一四番（伊賀多朗君） 国民宿舎は大衆のものであるから安い料金だし、みんながくる。減らないと、たいへんけっこうだと思ひますが、年々いろいろな意味で少なくなつてきておる。現実には四十五年度の数にもどつてきておる。ピークを越したのではないかという心配があるんですが、グループによってという、室の問題もありますし、いろいろあるわけですが、なかなかグループで利用率を高める。むずかしい問題だと思ひますが、夏あたりは当然多くなりますし、パーセントも減ることないかもしれませんが、一〇〇%になるということもあると思ひますが、そういうことであつてもせいぜい二百万というような数字が確保できるような御努力をいただきたいと思ひんですが、今いったように二千二百十円ぐらいい概算かかっちゃう。

たとえば、これはちょっとはすれますけれども、病院なんか入院

していますと、健康保険で一日千四百八十円なんです。栄養士がついていてカロリー計算をきちっとみて、二千二百カロリーから二千四百カロリーぐらいあるんです。そういうカロリーの計算のことがもしわかりましたら、あとでけっこうでございますから教えていただきたいということ、それからだんだん古くなっているわけですから、修理のこともたいへんだと思うんですが、利用率を上げていただきたいというふうにお願いいたしまして質問を終わります。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 一つ、お伺いしたいんですが、三月の当初予算ですね。休養施設の収入についてですが、予算が決定したわけですが、それは一応四十八年度の見通し、そういうことで予算は承認されたと思うんです。

途中でもって、こういうふうに宿泊、その他が値上りしてくるということが説明では環境庁の通達ということですが、全国見た場合に、それぞれの地域での地域差というものがあろうと思うんですよ。だから、環境庁の通達があったから一律にどこでも全国一律に上げなければならないというそういう性質のものじゃないんじゃないか。それぞれの地域の実情に応じて宿泊料金というものはやはりきめられていくべきじゃないか。

たとえば、この周囲の民宿の状態とかいろいろの問題があるんです。また、館山の観光政策上から見てどうなのか。特に、国体をひかえておりますし、宿泊料金がここにきて上るということは、館山にきた人たちが館山は高いということが一つの評判になると、これは相当利用者也減ってくる、夏は一応ピークですが夏は相応しいんじゃないかと思うんですが、四季を通じてやっぱり

り利用者が入らなければいけないわけで、そういう観光政策の面から見て、この料金が一体妥当かどうか。むしろそういうことは自主的にきめていいのではないかと、こういう問題ですね。

本年度は中食を抜いて四百万ぐらいの増収を見越すことは、増収をすで見込んでいるわけですよ。増収しなくても観光政策上、館山にきてよかったというようなことのほうがむしろ大事ではないか。多少赤字が出て、その段階で赤字が出ては困るというところで料金の値上げをするということならば、ある程度これは納得できますが、すでに値上げするときから増収を見込んで、見込んだ増収で施設の改善をやっていこう。サービスをよくしようというふうなこともありますけれども、そこらへんがちょっと問題だと思いませんか。そのへんをどういうふうに考えておられるか。

〇商工観光課長（鈴木 力君） お答え申し上げます。

もちろん、国民宿舎につきましては独立採算これをたてまえてやっておるわけでございますけれども、利用者というのは市民以外の観光客がほとんどのようでございます。

そういうことから考えましても、一応一般会計の繰り入れということは非常に問題があるのじゃないかろうか。

それからなお、全国的に見た場合、地域差というものはあるのじゃないかという、そういうようなことから一律の値上げということはないじゃないか、こういう御質問でございますが、確かに全国それぞれ地域差というものはあるわけでございます。一応国民宿舎の利用料基準というのが全国地域差なく一律に基準というものが定められておるわけでございます。もちろん、財政的にゆ

とりのある国民宿舎につきましては、基準の改定がなされてもあえて改定する必要はない。このように考えるわけであります。

当市の国民宿舎鳩山荘の状況を見ますと、四十八年度におきまして当初予算におきまして申し上げましたとおり、過去の実績を参考に推定したわけでございますが、しかしながら非常に高い利用度を見込んであるわけでございます。

四十八年度におきましては、宿泊率を当初予算におきまして六九%八四、全体の利用率を八五%、このように高い利用率を見たわけでございます。もちろん一つの努力目標ということでしたしあるわけでございますが、非常に四十八年度におきまして財政的に収入財源ということを考えた場合、非常に心配されたわけでございます。

今回の改定によりまして、財政的に一応見通しがついたというのが正直なところでございます。このようことから国民宿舎の鳩山荘におきましては、この改定をぜひお願いしたいと思うものでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） さっきの値上げ率を見ますと、六四%の値上げになるんですね。これは相当大幅な値上げになるわけですね。

今、聞きますと、非常に高い利用率を見ていますね。八〇%近い利用率を見ているわけですが、料金が上がることでよって当然この利用率が下る可能性もあるわけですね。これはこの七月十日から実施するということについても、ちょうど需要期をひかえて上るということは、ここにも一つ問題があると思うんですね。七月、八月が大体いっぱいになる。そういう時期に値上げをする

そこで大きな増収をはかる。しかしこれがはね返って館山の観光高いというようになりまして、その後の利用率に相当影響する。これは観光政策上から見ると今値上げするというのは相当問題があると思うんですね。環境庁の通達でもこれは強制的なものではないと思うんですね。だから一挙に六四%も値上げして増収を四百万円も見込むという、こういうやり方自体矛盾があるのではないかと。

一カ年の状態を見て、今までの状態でいってそうして赤字になるかどうかは、それは結果でなければわかりませんが、そういう場合にたとえ赤字になったとしても、館山市の観光政策上から見ても、見つけたことがよかったですということなら、一般会計から多少補てんしても、独立採算制でいくといっても、やっぱりそういう政策上から見ても、独立採算制でいくといっても、やっぱりそういう政策上から見ても、これは非常にまずいなど、値上げは。そういう点ではちょっと問題があると思いますので、今説明されたようなそういう説明ではちょっと納得しかねるというのが今私の考えですね。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託を省略いたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決しました。

た。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） これより討論を行ないます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） ただいま質疑の中で明らかになったように、観光政策上から見て六四%という値上げを七月十日から要するに夏の需要期をひかえて上げるということは、一般市外に對する利用者に対して相当大きい影響を持つと思うんですよ。

従来、ほかでもずっと今までかなり国民宿舎は安いということを利用してあつたわけですから、そういう点から見ると一挙に千四百円から千八百円まで上げるというようなことは、これは相当問題があると思うんです。

しかも、この中では四百万円もの増収を見込むという営利的なそういうものではないと思うんですよ。だから、そういう点から考えてこの値上げはもう一年待って見て、実績を見てその上でもってどうしても値上げしなければならぬというような実情であつたら、これは当然値上げしていいと思います。ただそういう時期ではないというふうに考えますし、この値上げに對しては賛成するわけにはいきません。

○六番（栗原一雄君） 私は、休養施設利用料金の基準料金の値上げについては賛成いたします。

と申し上げますのは、休養施設であります。鳩山荘は自治体で経営されておりますが、現在の物価暴騰という時期であり、特別会計である以上、当然赤字運営を行なうべきではない。このように考えるからでございます。

もちろん、利用者に対して必要以上の負担は当然避けるべきであらうかと思いますが、運営上必要な経費という考え方で、私は値上げは必要である。このように考えて討論したわけでございます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。――討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決します。本案の採決は起立により行ないます。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。
（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって本案は原案どおり可決されました。

開 会

○議長（吉田勇治郎君） 以上で、本臨時会に付議されました案件

は議了されました。

よって、これにて第三回市議会臨時会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、議案第五十七号、議案第五十八号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会議員

館山市議会議員

近藤好雄
田中祿郎

